

令和6年度 全国学力・学習状況調査の結果分析と考察

兵庫小学校

令和6年度全国学力・学習状況調査は、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るため、国が実施しているものです。

兵庫小学校では、この調査結果を把握・分析し、成果と課題を検証することによって、児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てていきます。

I 調査の概要

1 調査の対象

小学6年生

2 調査の内容

①教科に関する調査（国語・算数）

- ・調査する学年の前学年までに含まれる指導内容が原則
- ・身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識、技能等
- ・知識、技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価、改善する力

②生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

3 調査実施日

令和6年4月18日（木）

II 調査結果

1 国語

①平均正答率について

全国及び福井県の平均をともにやや上回った。

②正答率の分布からみる傾向

全国及び福井県と比較し、正答数が多い児童（全14問中 正答数12～13問）の割合が高い。

2 算数

①平均正答率について

全国及び福井県の平均をともに上回った。

②正答率の分布からみる傾向

全国及び福井県と比較し、正答数が多い児童（全16問中 正答数15～16問）の割合が高い。

Ⅲ 分析と考察

1 結果概況

国語、算数ともに全国及び福井県の平均正答率を上回りました。ただし、設問によっては全国及び福井県の平均正答率を下回る項目もあります。その他、よい傾向として、無回答率が非常に低いことが挙げられます。

2 教科別考察

① 国語

「良好」であること
○人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができる (本校 93.8% 全国 72.6%)
○日常的に読書に親しみ、読書が自分の考えを広げることに役立つことに気付くことができる (本校 87.5% 全国 74.6%)
○送り仮名に注意して、漢字を文の中で正しく使う (本校 93.8% 全国 76.0%)
○目的や意図に応じ、日常生活の中から話題を決め、伝え合う内容を検討することができる (本校 81.3% 全国 62.5%)
「課題」であること
△話し言葉と書き言葉の違いに気付くことができる…オンラインで交流する場面で「和田さん」が話し方を変えた理由を選択する問題 (本校 68.8% 全国 75.9%)
<原因>
・相手によりよく伝える方法やその効果が分かっていないと考えられます。
・情報を整理して、順序立てて簡潔に伝えることがうまくできていないと考えられます。
・語彙力が不足していることが考えられます。
<課題解決のために>
・内容を単純に羅列して表した文と順番に気を付けて短く表した文とを比べて、工夫した文の良さに気付かせるなど、相手によりよく伝える工夫について考えるような学習を意識して取り入れます。
・語彙力を高めるために、国語の教科書の巻末にある「言葉の宝箱」を使って作文をする活動を取り入れていきます。

△登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えることができる・・・「オニグモじいさん」が「ハエの女の子」にどのようにして話すか迷っていると考えられるところとして、適切なものを選択する問題（本校 62.5% 全国 66.9%）

<原因>

- ・登場人物の言動と心情のつながり（関わり）が読み取れていないことが考えられます。
- ・前後の文脈から心情をとらえることができなかったことが考えられます。
- ・「ぶあいそう」という直接的な描写に着目してしまい、「さびしそうな顔をして、ハエの女の子から目をそらしました」という暗示的な表現からは「オニグモじいさん」の迷っている心情を理解できなかったことが考えられます。

<課題解決のために>

- ・物語文の学習では、直接的な描写だけでなく、暗示的な表現の仕方にも注意しながら読む活動を行います。
- ・登場人物の行動や会話などについて、登場人物相互の関係と結び付けながら想像したり、場面の様子と登場人物の心情の関係に着目したりするなどの活動を行います。

② 算数

「良好」であること

○除数が小数である場合の除法において、除数と商の大きさの関係について理解している
（本校 100.0% 全国 69.1%）

○直方体の見取り図について理解し、かくことができる（本校 100.0% 全国 85.5%）

○除数が小数である場合の除法の計算をすることができる（本校 100.0% 全国 70.1%）

○直径の長さ、円周の長さ、円周率の関係について理解している（本校 93.8% 全国 71.3%）

「課題」であること

△球の直径の長さと立方体の一辺の長さの関係を捉え、立方体の体積の求め方を式に表すことができる・・・直径 22 cmのボールがぴったり入る箱の体積を求める式を書く問題
（本校 43.8% 全国 36.5%）

<原因>

- ・問題文から図形を構成する要素に着目して、捉えた図形の意味や性質をもとに、必要な情報を整理して問題を解決することができていないと考えられます。
- ・3.14 を用いて解答した児童は、円周率と直径の長さから体積を求めることができると誤って捉えていると考えられます。
- ・22×22 と解答した児童は、球の直径の長さと立方体の1辺の長さの関係を捉えることはできていますが、立方体の1つの面の面積の求め方を式に表していると考えられます。

<課題解決のために>

- ・問題文を読む際に、問題から答えを導くために必要な情報を整理する方法を指導していきます。
(例えば、自分で問題文に線や印をつけながら読んだり、図の中に必要な数値を書き込んだりするなど。)
- ・立体の性質や体積の求め方などを繰り返し授業で確認するようにしていきます。
- ・授業で問題を解く際に、工夫して簡単に解ける方法はないかを考えるようにしていきます。

△折れ線グラフから必要な数値を読み取り、条件に当てはまることを言葉と数を用いて記述する
…折れ線グラフから開花日の月について3月と4月の回数の違いが多い年代を読み取り、それぞれの月の回数の違いを書く問題(本校 56.3% 全国 44.0%)

<原因>

- ・資料や問題文から情報をうまく読み取ることができていないと考えられます。
- ・必要な言葉や情報の不足が見られ、説明が上手にできていないことが考えられます。

<課題解決のために>

- ・授業で説明する問題を解く際には、問題文をしっかりと読んで、必要な情報が何かを考え、問題文の文章を活用しながら説明する練習をしていきます。
- ・普段の生活や国語の授業などでも説明する機会を増やし、上手な説明の仕方が身につくようにします。